

第二十一回「三土新明会」

こけし開拓史 序説

- 蒐集家とこけしとのDialogue -



Oct. 15, 2016

橋本 正明

蒐集家（コレクター）とは何か

- コレクションを築いた人

コレクションとは何か

- コレクションとは、一時的もしくは永久に経済活動の流通回路の外に保たれ、その目的のために整備された閉ざされた空間で特別な保護を受け、視線にさらされる自然物もしくは人工物である。

Krzysztof Pomian 「コレクション－趣味と好奇心の歴史人類学」

- 「売るために店に集められた品物の集合は、経済活動内にあるからコレクションではない」
- 陶器の中に入れて地中に埋められた財宝や、銀行の保護箱・貸金庫に保存された古美術の集合などは、視線にさらされないからコレクションではない」

「蒐集品と記念品とはどう違うか」



➤ Walter Bendix Schönflies Benjamin の命題

ベンヤミンは子供の頃から自分の読んだ本を終生大事に保存していて、自己が解体しそうになる時、それを取り出して眺め、自己の再統合を図っていた。その本はコレクションか？



➤ 記念品はそれ自体では積極的な利用価値や必要性を持たない、ただ懐かしい過去への欲求を満たすため、薄れていく過去の経験が本物であったことを確証するための役割のもの (Susan Stewart)



➤ 蒐集品(コレクション)というのは、集められたものの中にシリーズ性があって、多様なものから全体性を再構築しようという意思があり、恣意的な体系によって秩序が生みだされるもの (Dean Maccannell)

問題その1

正倉院の御物はコレクションか？

756年（天平勝宝8歳）6月21日、光明皇太后は夫である聖武太上天皇の七七忌に際して、天皇遺愛の品約650点、及び60種の薬物を東大寺の廬舎那仏（大仏）に奉献したのが始まりである。光明皇太后はその後も3度にわたって自身や聖武天皇ゆかりの品を大仏に奉献し、これらの献納品は正倉院に納められた。献納品目録である献物帳も正倉院に保管されている。献物帳は五巻からなり、それぞれ『国家珍宝帳』、『種々薬帳』、『屏風花氎等帳』、『大小王真跡帳』、『藤原公真跡屏風帳』と通称されている。



問題その2

東山御物はコレクションか？

東山御物（ひがしやまぎょもつ/ひがしやまごもつ）とは、室町幕府8代将軍・足利義政によって収集された絵画・茶器・花器・文具などの称。「東山」は、義政が山荘を営んだ東山の地に因む。ただし、その中には室町幕府歴代将軍から継承された物が多数含まれ、また、江戸幕府歴代将軍の収集物が「柳営（りゅうえい）御物」と呼ばれるのに対する意味で、室町幕府歴代将軍の収集物全体を指して「東山御物」と呼ぶ場合もある。



伝 徽宗《猫図》北宋時代





清朝乾隆帝の書のコレクション

三希堂というのは紫禁城養心殿の片隅にある小部屋で、その広さは約3畳ほど、乾隆帝は、政務に疲れると、この三希堂に入ってくつろいだといわれる。

この書斎の名は、乾隆帝が愛玩した王羲之の「快雪時晴帖」、王献之の「中秋帖」、王珣の「伯遠帖」という三つの希な書跡の名宝を秘蔵したことによる。

コレクションの条件 (Dean Maccannell)

- シリーズ性
- 多様なものから全体性を再構築しようという意思
- 恣意的な体系によって秩序が生みだされるもの

コレクションの展示においても同じで
展示のテーマとして上記の条件をそろえているかどうか
またテーマの質がいいかが蒐集家の見識



普遍的な価値のあるものの蒐集

- ・ 美術工芸品、茶器

博物学的な収集

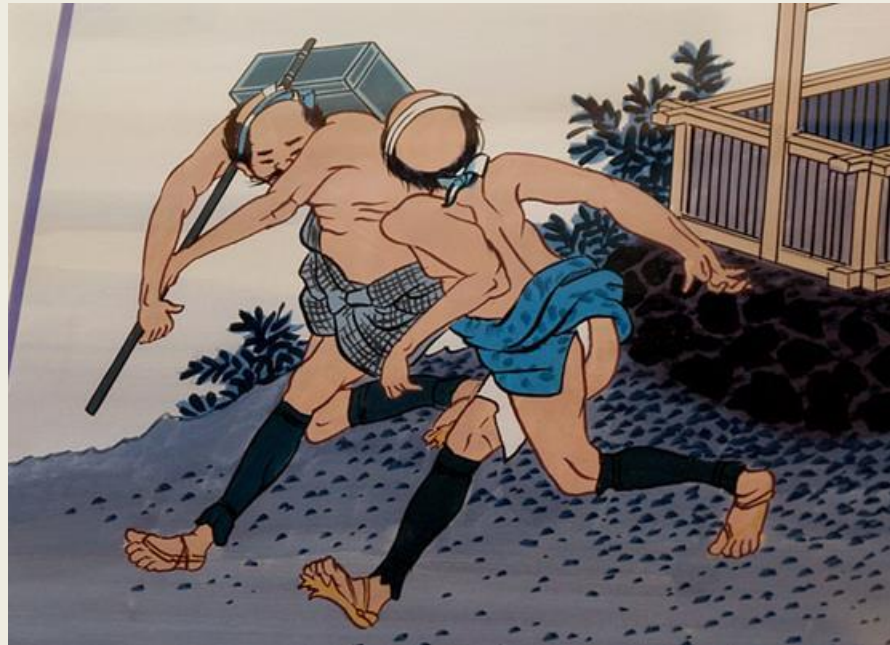
- ・ 植物、昆虫、貝

いずれにしても経済的に余力があり、社会が安定していないと蒐集（収集）は行えない。

庶民のレベルでの蒐集活動が盛んに行われるのは江戸中期以降である。

蒐集活動が活性化した条件

- 社会が安定して、経済的な余力があること
- 情報のネットワークが確立していること
(飛脚制度 江戸から京まで3～4日)



二人一組、夜は片方が高張提灯を持って走る。時速約10km。

江戸中期に始まった蒐集活動

江戸中期に始まった蒐集活動（博物学的関心）

本草会、薬草会、物産会（動物・植物・鉱物）

- ・ 宝暦元年 津島恒之進如蘭の本草会（大阪）
- ・ 宝暦七年 田村藍水の薬草会（東京湯島）
- ・ 宝暦九年 平賀源内の薬草会（東京湯島）



木内石亭を教える津島如蘭
石亭は鉱物コレクター

「難波の人形会」 岩永文楨（鐘奇齋）主宰

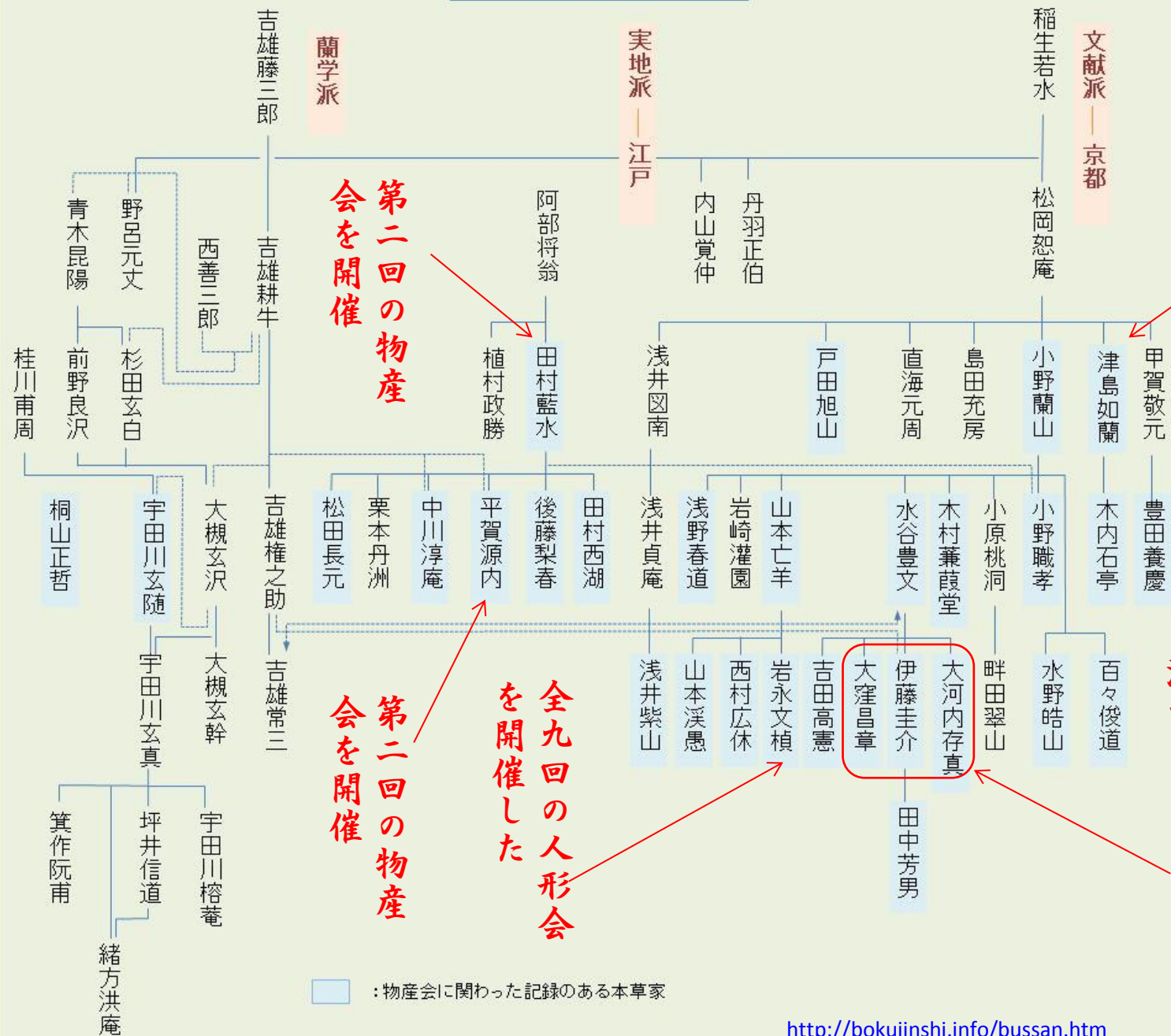
明治四十二年六月の「集古会誌」己酉巻五 林若樹

- 天保から嘉永にかけて九回ほど難波で開かれている
- 出品物
古代雛や這子、奈良人形、土佐人形、嵯峨人形、木彫人形など多数、中には古木偶とか木偶古人形という記載もある
- 会員
 - 中井修治：懷徳堂中井桐園の本名。舶来玉細工人形を出品。
 - 鴻池新十郎：鴻池の有力な分家の。焼未詳人形出品。
 - 山中喜右衛門：鴻池の分家、紅毛人形を出品。
 - 山中善五郎：鴻池の分家、舶来人形葡萄石出品。
 - 雨森良意：御所の御殿医。古代雛を出品。
 - 和田喜三郎：大阪の版元。峯入木目込人形を出品。
 - 杉浦兵左衛門：大坂町奉行与力寺社役。舶来木偶を出品。
 - 油屋善兵衛：大坂上人町の両替商。古渡石東方朔を出品。
 - 加嶋屋作兵衛：大阪の入替両替、からくり人形を出品。

など、大阪の大金持ちたち、懷徳堂を中心とする

「知のネットワーク」を支える人たちが集まっていた。

本草学者の系譜



嬉遊笑覧，喜多村信節，1830年（天保元年）

風俗習慣、歌舞音曲など
について書いた随筆



守貞謾稿 喜田川守貞(本名・北川庄兵衛)
起稿は1837年（天保8年）で、約30年間書き続けた。



江戸時代後期の三都（江戸・京都・大阪）の風俗、事物を説明した
一種の類書（百科事典）である。

竹馬会

清水晴風：代々清水仁兵衛 人夫請負運送業

明治12年 竹馬会を結成

会員：竹内久遠、万場米吉、林若樹、都々逸坊扇歌、

大槻如電、淡島寒月、談州楼燕枝、幸堂得知

後に巖谷小波、坪井正五郎、内田魯庵、尾佐竹猛

清水晴風はこの会の刺激でおもちゃ蒐集を始めた。

集古会

明治29年集古会結成

發起人：佐藤傳蔵、大野延太郎、八木獎三郎、田中正太郎
林若吉（林若樹）

第一會の参会者（21名）林若吉（林若樹）、大菊七郎兵衛、大野延太郎、亀田一恕、田中安国、田中正太郎、坪井正五郎、中川近禮、野中完一、黒川眞道、桑野禮治、八木獎三郎、山中笑、阿部正功、佐藤傳蔵、三宅米吉、水谷乙次郎、宮下鉦吉、下村三四吉、毛利利教、關和喜吉
八木獎三郎が發起人総代としてこの會の趣旨を述べ、坪井正五郎が祝辞を述べたとある



左から第一輯、第参輯、第貳輯
表紙圖案：岡田村雄
表題：磯野蛙巢

集古会のサブネットワーク

東大人類学教室・考古学関係

坪井正五郎、根岸半七(武香)、八木槌三郎、
蒔田鎗次郎、大野延太郎(雲外)、須藤求馬、
中澤澄男、下村三四吉、和田千吉、柴田常恵、
三宅米吉、江藤正澄

竹馬会・玩具

清水晴風、坪井正五郎
大槻如電、竹内久一、林若樹、
山中笑、万場米吉、巖谷季雄

林若樹

古銭

福田循誘、亀田一恕、林若樹、
山中笑、岡田村雄、三上母子太郎、
林静男、水野桂雄、原田寅之助、
西川國臣

古書蒐集

林若樹、横尾勇之助、鹿田静七、
堀野與七、青山清吉、
谷森眞男、大槻文彦、
三村清三郎、黒川真道

茶道・十六羅漢

東久世通禧、平瀬亀之助、
三田葆光、石見鑑造、松浦詮
青地幾次郎、金沢三右衛門、
益田孝(鈍翁)

国学・「古事類苑」・「好古類纂」

松浦詮、小杉楹邨、五十嵐雅言、
井上頼圀、黒川眞頼、黒川真道、
松本愛重、横井時冬、和田英松

日本画家

結城素明、平福百穂、小堀鞆音、
津端道彦、英一蜻、斎藤南陵、
広田華州、武内桂舟、五姓田芳柳

集古会 坪井正五郎と林若樹

ともに蘭医の家系



林洞海



林研海

林洞海

林研海

林若樹



坪井正五郎

本草学者の系譜

第一回の物産会を開催

昆虫・植物でシー
ボルトとの交友が
深かった。

文献派
京都

稻生若水

松岡恕庵

甲賀敬元

豊田養慶

津島如蘭

木内石亭

小野蘭山

小野職孝

水野皓山

百々俊道

島田充房

小原桃洞

畔田翠山

大河内存真

直海元周

木村兼葭堂

伊藤圭介

田中芳男

戸田旭山

水谷豊文

大窪昌章

丹羽正伯

山本亡羊

岩永文楨

内山覚仲

岩崎灌園

西村広休

実地派
江戸

浅井図南

浅井貞庵

浅井紫山

阿部将翁

植村政勝

田村西湖

山本溪愚

全九回の人形会
を開催した

蘭学派

第二回の物産
会を開催

第二回の物産
会を開催

吉雄藤三郎

古雄耕牛

吉雄権之助

吉雄常三

西善三郎

大槻玄沢

大槻玄幹

野呂元丈

杉田玄白

宇田川玄随

宇田川玄真

坪井信道

緒方洪庵

青木昆陽

前野良沢

桐山正哲

箕作阮甫

坪井信道

宇田川榕菴

桂川甫周

大槻玄沢

大槻玄幹

坪井信道

宇田川榕菴

集古会 大槻如電（竹馬会）
大槻文彦（言海）の祖父

集古会 坪井正五郎の祖父
正五郎の妻は箕作阮甫の孫娘

：物産会に関わった記録のある本草家

「御芥子人形包紙・人形」ライデン国立民族学博物館蔵



本草学

蘭学派

和学派

実地派

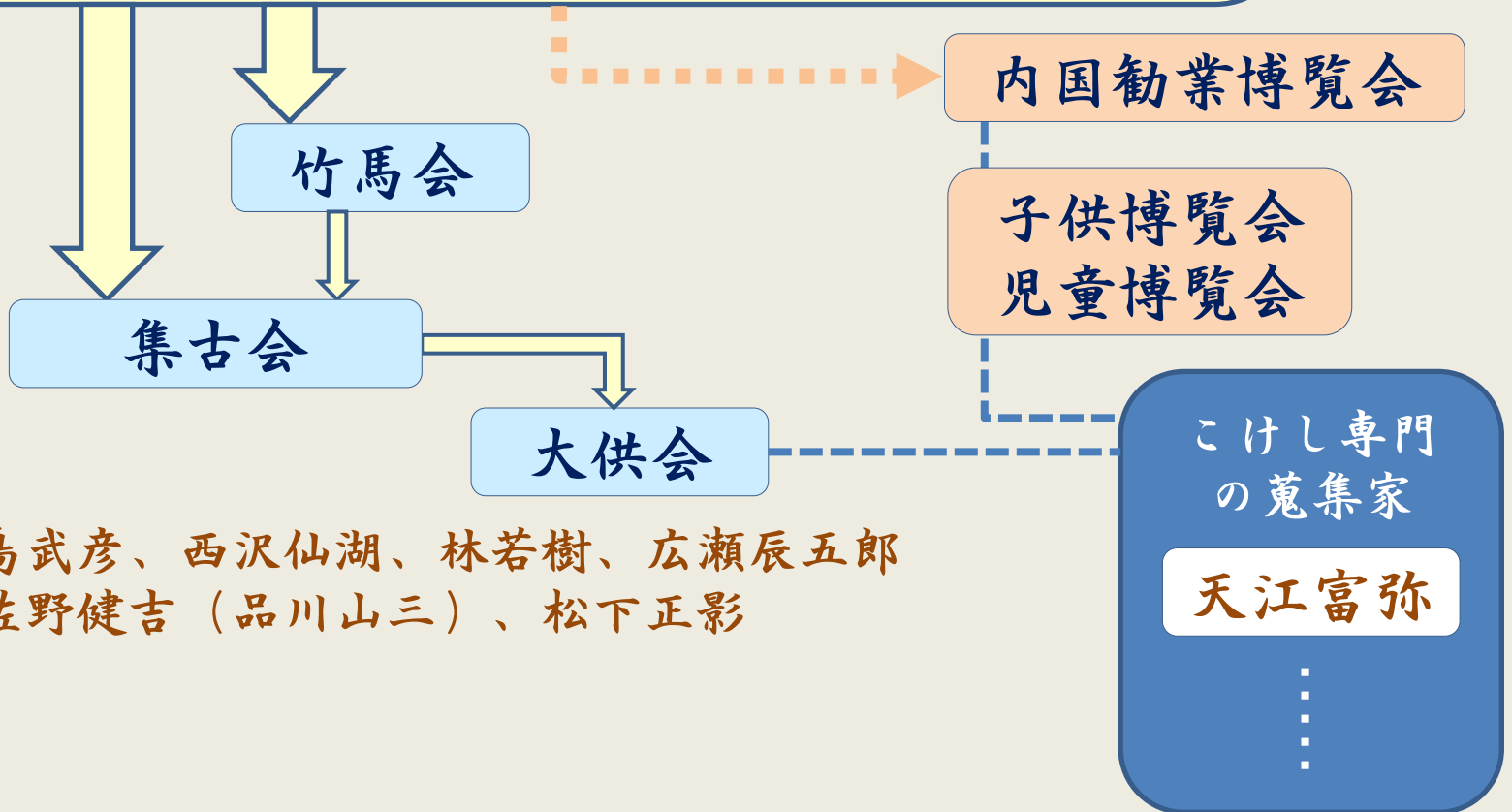
文献派

人形会

物産会

薬品会

本草会



久留島武彦、西沢仙湖、林若樹、広瀬辰五郎
他に佐野健吉（品川山三）、松下正影

第一回内国勸業博覧会

- ・ 期間：明治十年八月二十一日から十一月三十日
- ・ 会場：東京の上野公園
- ・ 入場者　：延べ四十五万人

こけしが出品された

作者は刈田郡八宮(現・弥治郎)の佐藤常治であり、「躑躅材木偶・尺五寸五分」という記録が残っている。

寸法は、尺すなわち丈が五寸五分と言う意味か、あるいは一尺五寸五分であったか不明。この佐藤常治は、佐藤東吉、新山丑蔵などと並んで弥治郎創世期の工人であるが、この博覧会の後明治十六年十一月四日に亡くなった。飯坂の佐藤栄治(旧姓毛利)は常治に木地を習い、常治亡き後その長男常吉からも教えを受けたと言われている。

高橋五郎氏が出品記録を持っている

集古会ゆかりのこけし



大野雲外から清水晴風に贈られた



清水晴風により〈うなるの友〉で紹介された



貳編



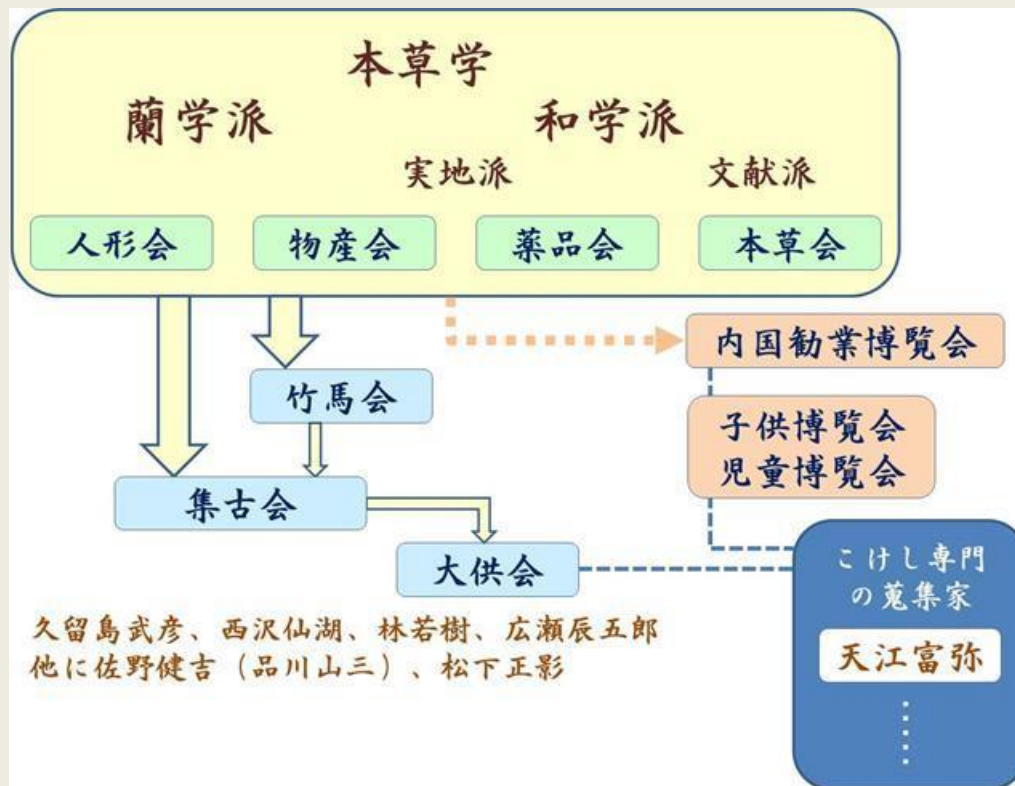
五編

大沼甚四郎（鳴子時代）

林若樹の遺品が吾八で売りとてられた際に、深沢要に贈られたもの



京都市岡崎町博覧会館で開催された
「こども博覧会」



こけし開拓史前史
序説

天江・武井時代

橘・米浪時代

深沢・渡辺時代

こけし開拓史の時代へ

- 蒐集家とこけしとのDialogue -

➤ 橘文策の場合

木人子閑話(28) 橘文二の青春



昭和48年
米浪、橘、寺方

大阪こけし教室
幹部の前で
講演する箕輪氏



- 蒐集家とこけしとのDialogue -

➤ 橘文策の場合

木人子閑話(28) 橘文二の青春

➤ 土橋慶三の場合

木人子閑話(29) 憧憬としての「陰惨」 -土橋慶三が見たもの-

➤ 西田峯吉の場合

➤ 鹿間時夫の場合

【西田峯吉プロフィール】

1900年（明治33年）生まれ 島根県安来市広瀬町布部（旧・布部村）出身
大正14年、大学卒業後農林省に入省。蚕糸業に関わり、
研修旅行で東北地方を廻った際にこけしに出会う。

昭和31年～平成3年まで東京こけし友の会会長を務め、
鳴子温泉の全国こけし祭りコンクール審査委員長も長く勤める。

1993年（平成5年）7月12日没。94歳。

平成7年4月、福島市内に「原郷のこけし群西田記念館」開館。



【西田峯吉の代表的なこけし関係著書】

昭和17年「古形志加々美」（菊楓會同人＝土橋慶三・溝口三郎・西田峯吉・金森遵）

昭和18年民族玩具叢書第5巻「こけし風土記」（新龍社）

昭和28年～昭和30年「こけしの郷愁」（東京こけし友の会）

昭和30年～「こけし手帖」（東京こけし友の会）

昭和31年「こけし」（共著：土橋慶三）

昭和36年「こけし風土記」

昭和36年「こけしの美」（監修 米浪庄弼、鹿間時夫、西田峯吉、土橋慶三）

昭和39年「鳴子・こけし・工人」

昭和43年「こけし事典」（菅野新一監修・土橋慶三・西田峯吉編著）

昭和47年「こけしのふるさと」（菅野新一監修・土橋慶三・西田峯吉編）

昭和50年「こけし伝統の美 心豊かな人形の世界」

昭和62年「図譜・原郷のこけし群 西田峯吉コレクション第1集・第2集」



【鹿間時夫プロフィール】

1912年6月6日（明治45年）生まれ 京都市出身

1931年（昭和6年）～1939年（昭和14年）東北大帝国学地質学教室で
葛生化石動物群について調査。ニホンムカシジカやクズウアナクマなどの新種11種発見。

1950年（昭和25年）東北大学理学博士。横浜国立大学教授。古生物学研究。

東京こけし友の会幹事 こけしの会同人

1978年12月12日（昭和53年）没。67歳。

【鹿間時夫の代表的なこけし関係著書】

昭和18年「こけし襦記」

昭和28年～昭和30年「こけしの郷愁」（東京こけし友の会）

昭和30年～「こけし手帖」（東京こけし友の会）

昭和29年「こけし・人・風土」

昭和41年「こけし 美と系譜」（中屋惣舜・鹿間時夫著）

昭和42年「こけし鑑賞」

昭和46年「こけし辞典」（中屋惣舜・鹿間時夫編）

昭和49年～「木の花」（こけしの会）

昭和51年「こけしの旅」（こけしの会）

昭和55年「美の遍歴－民芸とこけしより南画へ－」





治助



栄治



文六

鹿間三名物

庄七は大頭で頭一杯描かれる赤い手絡が
満艦飾の如く放射し、青ろくろと達筆な
菊花が照り返って芳醇な情趣を出し、切
れ長の瞼涼しく、ほんのりと淡い頬紅と
長目の両鬢とまって艶麗比いのない絶世
の美女を創り上げた。



蒐集家は、自分が憧れていた生き方の、
満たされていない部分を補完するような形で、
その蒐集活動を行う。

蒐集家は、その対象にのめり込めばのめり込む程、
平衡を保つための補完の工夫を整えながら、
その蒐集活動を行う。

完